

令和6年度「総合的な探究の時間」の全体計画

1 「総合的な探究の時間」の校内での名称（実施学年ごとに記入する）

- 1 学年「総合的な探究の時間」（人間と社会を総合的な探究の時間の中で実施する。）
- 2 学年「総合的な探究の時間」（進路探究）
- 3 学年「総合的な探究の時間」（課題別探究）

2 学校の教育目標

自他の敬愛と協力の精神をもち、変化する社会に対応できる自主性と創造力に富んだ人間の育成

3 各学校において定める「総合的な探究の時間」の目標

本校では生徒の将来像及び育成すべき資質・能力を次のように定める。

- (1) 自らのよさを知り人生を充実させる生徒(自主性、実践力、協働力、人間理解力、基本的な生活習慣)
- (2) 規範意識をもち、地域社会に貢献できる生徒(規律性、傾聴力、課題発見力、状況把握力)
- (3) 自己実現の為に努力を怠らず、最後まであきらめない生徒(継続性、忍耐力、主体性、実行力)

資質・能力を育成するため、以下の目標を定める。

- ・探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習・探究活動を行うことを通じて、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見していくための資質・能力を育成することを目指す。
- ・他教科等での学習事項や探究の経験を教科横断的に生かし統合することを目指す。
- ・「体験活動」を通して、社会に貢献する豊かで創造力のある人間を育てる。

4 生徒・学校・地域の実態

- 【生徒】高等学校入学時点で学習習慣が身につけていない生徒が多く、基本的な生活習慣や自己の将来に対する展望が確立されていない生徒も多い。
- 【学校】授業規律の確立に取り組み、「わかる授業」を工夫している。また、習熟度、少人数授業を導入し、基礎学力の向上に力を入れ、学校生活を充実させることに重点を置いている。
- 【地域】奉仕活動や防災活動、生徒会活動を通して、地域の理解や協力を得ている。学校への関心も深く、地域に根ざしている。

5 指導体制（実施学年ごとに記入する）

教務部、進路指導部を中心に組織的に指導計画を立案し、指導体制を確立する。

- 【1 学年】学年一斉少人数形式で行う。事前指導においては一斉指導を中心に実施する。体験活動においては、あらかじめ定めた活動内容別に班編成で実施する。1 学級ごとに学級担任 1 名と教科担当 1 名とで担当する。学習や体験活動に取り組む姿勢を中心に多面的な評価を行う。
- 【2 学年】2 クラスを 3 展開した少人数編成で実施する。学級担任 6 名と総合担当 3 名とで担当する。職場訪問等で自身の在り方・生き方について深く考えさせ、レポート作成やグループでの探究活動を通して、総合的に評価する。
- 【3 学年】「課題別探究」では、研究テーマ別に少人数のグループ編成を行い、全グループ同時展開で実施する。教科担当 11 名で担当する。活動における理解度や思考力及び相互発表での研究達成度や表現力等、学習状況の過程も含め、総合的に評価する。

週時程内で、1 単位(年 35 時間)実施

6 育てようとする資質や能力及び態度

【知識及び技能】

「継続性、忍耐力」：自らの課題の目的・目標を理解し、取り組み続けることができる。

「規律性、傾聴力」：規則やルールが存在する意義をくみ取り、行動することができる。

【思考力、判断力、表現力等】

「課題発見力」：現状の問題を解決するために適合する課題を見出すことができる。

【学びに向かう力、人間性等】

「協働力」：自己と他者を相互に尊重し、適切な人間関係を構築し、意見を比較検討することができる。

「主体性、実行力」：問題解決に向け、計画に基づいて実行しようとする。

7 内容（学習対象、学習事項）（実施学年ごとに記入する）

【1学年】「人間と社会」学年単位またはHRを分割した少人数での社会生活に関する学習

(1) 社会生活の基礎知識を得ることで、円滑な人間関係を築き上げる。

(2) 奉仕の意義を理解し、体験活動を通して、社会貢献できる力を身に付ける。

(3) 体験活動をまとめ、発表することを通して、より良い生き方を身に付ける。

【2学年】「進路探究」HRを分割した少人数での学習

(1) 自己を探究する (2) 他者と社会とのつながり

(3) 身近な仕事の現場について知る (4) 上級学校を知る

(5) 契約、年金、カード会社、フリーターについて考える (6) 奉仕について考える。

【3学年】「課題別探究」生徒の興味関心に応じた自由選択形式による課題探究で、以下の分野から選択する。

(1) 日々の生活に活用できる知識や技術の探究 (2) 資格取得への挑戦

(3) トレーニング方法の探究 (4) 自らの知的好奇心を深める探究活動

(5) 新聞・書籍を用いた研究及びプレゼンテーション能力の向上

8 学習活動

【1学年】週1時間6学級（事前・事後学習）で実施する。体験学習は15時間を予定。
年間35時間、1単位。

【2学年】進路探究、2学級3展開で実施。
年間35時間、1単位。

【3学年】学年一斉に展開して実施
年間35時間、1単位。

9 指導方法

【1学年】事前・事後学習は教室でのチーム・ティーチングを行う。体験学習は担当教員が班別に引率して実施する。

【2学年】教室での一般常識学習と進路学習を行う。

【3学年】「課題別探究」では教科の枠にとらわれない幅広い知識と課題解決能力の育成を目指す。

10 各教科等との関連

【1学年】福祉活動やボランティア記事のまとめは、保健体育科、公民科、家庭科と連携して効果的に指導する。

【2学年】家庭科で実施する夏季休業中の保育実習などに関連させ、自己の進路について考察を深めさせる。

【3学年】教科の枠にとらわれない幅広い知識と課題解決能力の育成を目指す。

11 外部との連携

「福祉ボランティア」においては、地域の福祉団体等の協力と指導を仰ぎながら実施する。

「進路探究」では、職場訪問において近隣の商店街等の協力を得る。また、NPO法人の支援を受けて、金銭教育等のプログラムについて、講義を受ける。

令和6年度「総合的な探究の時間」の年間指導計画

(1学年)

1 単位時間の時間 (50) 分

学期	月	指導項目	指導内容	評価計画	配当時間
1	4	オリエンテーション	活動の意義 ・ 準教科書「人間と社会」p. 5～9 ・ 社会における奉仕活動の意義	【知識及び技能】 「継続性、忍耐力」 「規律性、傾聴力」 ・ 他人への理解と協力 ・ 学習や体験活動に 取り組む姿勢 【思考力、判断 力、表現力等】 「課題発見力」 ・ 奉仕活動の意義と 課題に対する認識 ・ 自己改善力 【学びに向かう 力、人間性等】 「協働力」 「主体性、実行力」 ・ 奉仕活動に対する 興味・関心 ・ 対人間能力 ・ 学習や体験活動 に取り組む姿勢 ・ 実践力と貢献度	3 (0)
	5	体験活動	①課題の設定【探究活動】 「東日本大震災後のボランティア活動について」 ・ 防災訓練 普通救命講習・起震車体験・放水訓練等を体験し、災害ボランティアに参加できる能力を身に付ける ・ 準教科書第3章及び第11章を用いて、課題を設定する		5 (5)
	6	ボランティア	・ ボランティア活動とは何か 福祉について ・ 準教科書 p. 111～118		1 (0)
	7	障害への理解	・ 障害の基礎知識について 聴覚障害者についての DVD 視聴		4 (0)
2	9	「震災後の復興ボランティア活動」	②情報の収集 ③整理・分析【探究活動】 被災地ではどんなボランティア活動が実施されたか ・ オリエンテーション ・ 新聞を読み取る作業 ・ 記事の選択 「かつしかボランティアセンター」の協力で点字・手話・車椅子体験、施設で交流を実施する	6 (0)	
	10				
	11 12	体験活動			5 (3)
3		クリーン作戦 ハーフマラソン ボランティア参加	④まとめ・表現【探究活動】 地域の清掃活動 立石地区委員会 「かつしかふれあい RUN ランフェスタ」主催：葛飾区教育委員会 ・ 給水担当 ・ ゴール地点等での選手への応援 ワークシートを活用し、1年間の学習を振り返る	3 (3)	
		1年間の学習の振り返り			4 (4)
					1 (0)
配当時間 数の合計					35 (15) 体験

※ 詳しい学習内容は、次頁にある。

1 学年 「人間と社会」の学習内容

(1) 演習（10時間） 準教科書を活用する。

第1章 人間関係を築く（2時間）

いじめの事例を挙げ、より良い人間関係を築く。

第2章 学ぶことの意義（2時間）

現実社会における学ぶことの大切さに気づく。

第3章 働くことの意義（2時間）

地域社会の一員としての責任を持っていることを自覚し、社会に参画する能力を育成する。

第11章 支え合う社会（2時間）

他者と協力しながら主体的に課題を解決する能力を育成する。

第15章 文化の多様性（2時間）

異なる文化への理解を深め、多様な価値観の中で協働する力を育成する。

(2) 探究活動（8時間） 指導部作成の補助資料及び「探究ナビ」を活用し、探究活動を行う。 テーマ「東日本大震災後のボランティア活動について」

(3) 事前学習（1時間）

ワークシートを用いて、起震車やAEDに関する知識を学び、防災訓練に備える。

(4) 体験活動（15時間）

①防災訓練（5時間） 本田消防署（03-3694-0119） 葛飾警察署（03-3695-0110）

普通救命講習、起震車体験、放水訓練、避難所生活体験、葛飾区防災倉庫から物質調達、スタンドパイプ訓練、就寝会場整備

AED等の講習、訓練を行う。講習・訓練後、グループごとに生徒が司会をし、消防署の方も含めてディスカッションを行い、災害についての知識を高める。災害ボランティアについての能力を身に付けて、地域の災害ボランティア活動に積極的に参加する。

②かつしかボランティアセンターの協力を得て、手話体験・点訳体験・車椅子体験等を行う。（3時間） （会場ウェルピアかつしか） 共催：葛飾ボランティアセンター（03-5698-2511）

③学校と最寄り駅周辺の実地調査 ハザードマップ作成実地調査（3時間）

立石地区のハザードマップを作成し、立石地区センター等で活用する。

立石仲町会・立石西町会・立石宮元町会と協力し、ハザードマップ作成する。

④かつしかふれあいRUNフェスタ＜ボランティア参加＞（4時間）

各地点の給水所で給水の準備

ゴール付近での応援・励まし・ハイタッチ

主催：葛飾区教育委員会事務局生涯スポーツ課（03-3691-7111）

(5) 事後学習（1時間）

ワークシートを用いて、点訳、手話、車椅子、体験援助等の振り返りを行う。

ボランティア活動のまとめ、整理をする。

令和6年度「総合的な探究の時間」の年間指導計画

(2学年)

1 単位時間の時間 (50) 分

学期	月	指導項目	指導内容	評価計画	配当時間
1	4	1 ガイダンス	「総合的な探究の時間」ガイダンス	自分史に関するレポートを提出させ、取り組みの姿勢を通して「自己の進路を考える」ことに対する興味・関心を評価する。	3
	5	2 自己探究	①ウォーミングアップ ②今の自分③自分史		4
	6	3 身の回りの仕事を知る	①ガイダンス ②職業の分類③求人票の見方		5
	7	4 職場訪問の準備と実施	④職場訪問の準備・アポイントメントの取り方、電話のかけ方 ⑤訪問先の決定		2
2	9	5 職場訪問・職業調査まとめ	①職場訪問まとめ・相互発表 ②NPO法人のカリキュラム	授業中のワークシートへの取り組みの状況を通して、理解度、思考力・判断力や表現力を評価する。	3
	10 11	6 将来について考える	進路希望調査 ①フリーターについて考える ②学校を選ぶ前段階として自分の適職を考える		5
	12	7 上級学校を知る	③上級学校の種類を調べる (インターネット検索と並行) ④進路別ワークシートによる学習 (NPO法人のカリキュラム)		5 2
3	1	8 現在の自分と将来の自分を結びつける	①どんな生き方をしたいか②どんな仕事に就きたいか③そのためにはどんな準備が必要か④必要な資格技能はあるか⑤何を学んでおけばいいか⑥職業と業種の研究⑦自分にあった職種⑧自分の志望を決定する。	レポートを提出させ、授業に取り組む姿勢を通して「自己の進路を探究することに対する興味・関心や意欲を評価する。	2
	2				3
	3				1
配当時間数の合計					35

令和6年度「総合的な探究の時間」の年間指導計画

(3学年)

1 単位時間の時間 (50) 分

学期	月	指導項目	指導内容	評価計画	配当時間
1	4	ガイダンス 1 講座選択 テーマ設定	ガイダンス 1 「課題別探究」の講座選択・課題設定 ○日々の生活に活用できる知識や技術の探究	レポートを提出させ、授業に取り組む姿勢を通して「課題を設定して研究すること」に対する興味・関心や意欲を評価する。	3
	5	2 年間計画の作成	○資格取得への挑戦 ○トレーニング方法の探究	演習ワークシートへの取り組み状況を通して理解度、思考力などを評価する。	4
	6	3 テーマ研究	○自らの知的好奇心を深める探究活動		5
	7		○新聞・書籍を用いた研究及びプレゼンテーション能力の向上		2
2	9		2 「情報収集」 ○インターネットや書籍等を活用した情報の収集	授業中の質疑応答、中間まとめの状況を通して理解・意欲や努力の状況の評価する。	3
	10		○著作権の理解 ○博物館等の外部施設の利用	また、演習ワークシートへの取り組み状況を通して理解度、思考力などを評価する。	5
	11	4 中間発表	3 「整理分析」 ○マッピング		5
	12	5 研究の継続	○アンケートや統計の基本 ○小論文の作成		2
3	1	6 テーマ研究のまとめ	4 「まとめ・表現」 ○発表内容、発表方法の検討	相互発表を通して自己評価及び相互評価を行う。研究状況の把握、資料のまとめ方、発表の様子を通して達成度、表現力、技能を評価する。	3
	2	7 講座別発表会	5 「課題別探究」の中間発表 ○自己評価と相互評価 ○評価のクロス集計 ○南葛祭でのポスターセッション 6 「課題別探究」の研究の継続 ○中間発表を通しての探究活動の継続及び見直し 7 「課題別探究」のテーマ研究のまとめ ○論文の作成 ○プレゼンテーションソフトの利用 8 「課題別探究」の講座別発表会 ○論文の完成 ○発表の評価		3
配当時間数の合計					35